

パーソナリティと適応の心理

科目ナンバリング CLI-101
選択 2単位

平沼 晶子

1. 授業の概要(ねらい)

人間の発達は、「知覚・知能・記憶・言葉・思考・学習」などの認知領域と「性格・感情・社会性」などのパーソナリティ領域に分けることができる。授業では、パーソナリティ領域に焦点を当てて児童期の子どもの心理を中心に学ぶと共に、受講生自身の自己理解と他者理解を深めていく。また、学校や職場における不適応への援助事例を読み、臨床心理学の理論に基づいて問題をどのように捉えて対応していくかについて学び、ディスカッションを通して理解を深める。

2. 授業の到達目標

- ① パーソナリティの発達を理解して説明することができる。
- ② 自己理解と他者理解を深めることができる。
- ③ 不適応が生じる背景を捉え、対応と予防について理解することができる。

3. 成績評価の方法および基準

授業内提出物・小レポート(50%)、期末課題(50%)で評価します。

4. 教科書・参考文献

教科書

森下正康著 『児童の心理：パーソナリティ発達と不適応行動』 サイエンス社

参考文献

丹野義彦著 『性格の心理：ビッグファイブと臨床からみたパーソナリティ』 サイエンス社

杉原一昭編著 『事例で見る発達と臨床：カウンセリングの現場から』 北大路書房

5. 準備学修の内容

各回の授業で学んだ内容をノートにまとめて復習をする。

6. その他履修上の注意事項

- ① パーソナリティについて、児童期を中心に、幼児期から児童期、児童期から思春期への発達という視点から興味をもって臨んでほしい。
- ② 授業では、ワークを行ったり、事例を読みながら、受講生同士が意見交換を行うことを大切にしているため、共に学び合う姿勢をもって取り組んでもらいたい。

7. 授業内容

- | | |
|--------|---|
| 【第1回】 | オリエンテーション：授業概要・授業の進め方と注意事項
「パーソナリティとは何か」グループワークを通して考える |
| 【第2回】 | 自己理解と他者理解
「私たちは自分をどうみるか」ワーク：20答法から考える |
| 【第3回】 | 自己の発達と自尊感情
自己に関するさまざまな調査データに基いて考察する |
| 【第4回】 | 児童期における自己の発達①
自己制御の難しい子どもの事例を通して考える |
| 【第5回】 | 児童期における自己の発達②
自己制御の難しい子どもの事例について、グループディスカッションにより考えを深める |
| 【第6回】 | 思いやりの形成
ペアワーク：自分の見方を変えるリフレーミング |
| 【第7回】 | 道徳性の発達・攻撃行動
グループワーク：環境移行期における周囲からのサポートとパーソナリティの発達 |
| 【第8回】 | 思春期における不適応行動①
将来に希望がもてない中学生の事例を通して考える |
| 【第9回】 | 思春期における不適応行動②
将来に希望がもてない中学生の事例について、グループディスカッションにより考えを深める |
| 【第10回】 | ⑩思春期における不適応行動③
学校におけるいじめの心理 |
| 【第11回】 | (オンライン授業)
映像「人の中で人は育つ」を視聴して、パーソナリティの発達という視点から考察する |
| 【第12回】 | 成人期における不適応行動①
ストレスと不適応行動
フリーターを続ける成人の事例を通して考える |
| 【第13回】 | 成人期における不適応行動②
フリーターを続ける成人の事例について、グループディスカッションにより考えを深める |
| 【第14回】 | 成人期における不適応行動③
ひきこもりの心理 |
| 【第15回】 | 全体のまとめと確認 |